

ソイカル from 静原 ～京都大豆食文化の発信～

活動場所：左京区 静市静原町

活動時期：平成 27 年 4 月～

● 発表団体

みらい発信局 おむすび
～静原応援隊～

● 連携メンバー

株式会社 北尾吉三郎商店	丸善雄松堂株式会社京都産業大学店
静原町自治会	京都西陣アップス珈琲
静原小学校	パーティスリー ゼロ
むすびわざグッズ制作チーム	飛香館

活動内容

学生団体「みらい発信局おむすび～静原応援隊」は、左京区静原町の地域産業である農業の活性化を目的に、団体が保有する静原の農園で、地元の方に指導を受けながら野菜作りに取り組んでいる。これまで、地域の方々と協働で「静原で育てた農作物を使ったオリジナル商品」の開発、静原朝市を始めとした市内各所でのイベントで「農作物や商品の即売会」を実施してきた。

今年度は、京都の食文化を支える「大豆」が、現在は府内でほとんど栽培されていない点に注目し、京都産大豆「オオツル」の栽培を行った。また、大豆に関するイベントの実施や大豆製品の商品化を通して、「京都産大豆」や「オリジナルの大豆製品」を静原の特産物に育てる活動行っている。さらに、静原小学校でのボランティア活動（授業補助）や、地域の大人や子供たちを招いた「収穫祭」を開催し、地域の子供たちとの交流も行っている。

取組の成果・活動で工夫した点

協力者の方々との連携を重視して活動を行なっている。例えば大豆について学ぶために、大豆の卸売業者である（株）北尾吉三郎商店さんを何度も訪ね勉強会を開いた。また、イベントの際には講演をしていただき、大豆の文化・歴史から栽培の方法まで幅広く知識を深めた。他にも商品開発の際には、製造元の方々との味あわせはもちろんのこと、（株）北尾吉三郎商店さんや静原の方々に試食していただき、その意見を反映することで品質の向上に努める。

連携メンバー・役割

株式会社 北尾吉三郎商店	京都産の大豆の提供、大豆栽培に関しての助言
静原町自治会	地域の方々への取り次ぎ、農地拡大について取り次ぎ
静原小学校	学内での大豆の栽培、地域の方々への取り次ぎ
むすびわざグッズ制作チーム	商品開発・京都産業大学内での販売協力
丸善雄松堂株式会社 京都産業大学店	大学内での販売場所の提供、商品開発にあたっての監修
京都西陣アップス珈琲	販売場所の提供、商品開発・販売協力
パーティスリー ゼロ	商品開発・販売協力
飛香館	商品開発・販売協力

今後の課題・目標

◆ 今後の課題

無農薬での栽培を行ったため、害虫被害による作物の品質の低下や廃棄のリスクを軽減できるかが今後の課題となる。また栽培面積がまだ少ないため収穫量が少量となっている。今年の活動で大豆の魅力を静原の方に知つていただく活動を通して、栽培への協力、栽培地の拡大が必要となる。その際、静原の問題解決にもなるよう取り組んでいく。

◆ 目標

京都産の大豆をブランド化するために、商品化・販売により大豆の魅力を発信し、京都中に京都産の大豆のよさを知つていただく。静原が京都産大豆の栽培の中心地として、静原に大豆を核とした一つの産業を興し、静原の活性化を図る。

関連 WEB サイト :<https://ja-jp.facebook.com/sizuhara.omasubitai/>